



2013（平成25）年11月7日  
日本女子大学

## 第九回「平塚らいてう賞」受賞者を決定

〈顕彰〉 肖 霞 氏      〈奨励〉 高橋 順子 氏

〈特別〉 東日本大震災女性支援ネットワーク

日本女子大学は本日、研究者・学生の顕彰・奨励を目的とした第九回「平塚らいてう賞」の受賞者を決定しましたので、お知らせいたします。

本年は顕彰4件と奨励2件の応募がありました。厳正な審査の結果、顕彰1件・奨励1件・特別1件を決定しました。受賞された方を以下に紹介します。

### \* 「平塚らいてう賞」

女性解放や世界平和のための活動に人生を捧げた平塚らいてう氏（1906年日本女大卒業）の遺志を継承し、男女共同参画社会の実現および女性解放を通じた世界平和に関する研究や活動に対する顕彰と奨励をはかることを目的として2005年に創設した賞。

### ■ 受賞者

顕彰（1件） 肖 霞 氏  
（中華人民共和国 山東大学 外国語学院 日本語科 教授）  
奨励（1件） 高橋 順子 氏  
（日本女子大学 人間社会学部現代社会学科 助教）  
特別（1件） 東日本大震災女性支援ネットワーク  
（共同代表：竹信 三恵子 氏・中島 明子 氏）

### ■ 贈賞式

本年12月14日（土）14時から、日本女子大学目白キャンパス新泉山館にて行います。

### 〈選考委員〉

佐藤 和人      〔日本女子大学学長〕  
中島 邦        〔日本女子大学名誉教授〕  
出淵 敬子      〔WILPF（婦人国際平和自由連盟）日本支部副会長、日本女子大学名誉教授〕  
羽田 澄子      〔記録映画作家〕  
大沢 真知子   〔日本女子大学 現代女性キャリア研究所所長〕

—この件に関するお問い合わせ先—

日本女子大学 広報渉外課内 「平塚らいてう賞」事務局  
〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1  
Tel:03-5981-3163 Fax:03-5981-3164  
E-mail:raiteu@atlas.jwu.ac.jp  
URL:http://www.jwu.ac.jp/st/grp/raiteu/



## 第九回「平塚らいてう賞」選考委員発表コメント

第九回受賞者の選考にあたり、私どもは候補者の業績を広く、世界の女性のさらなる解放、問題の解決、平和問題や地域社会への公正な目配りと着実な行動の継続という観点から論議し、以下の諸業績に対して、各々「顕彰」「奨励」「特別」に値するとの結論に達しました。

ご業績の特色や褒賞に値する観点は下記の通りです。

### <顕彰>

受賞者：肖霞氏

研究テーマ：「元始 女性は太陽であった―“青鞞”及びその女性研究」（邦訳後のタイトル）

受賞理由：平塚らいてう賞に初めて、中国(山東大学)の方が応募された。雑誌『青鞞』を手がかりに近代日本の女性を対象とする研究で、中国語版『元始女性は太陽―“青鞞”及其女性研究』が山東人民出版社より2013年6月刊行された。全9章428ページに及ぶ大冊である。

中国において女性研究は未だ十分に広がっておらず、さらに国際比較の視点はこれからの課題であり、中・韓・日の女性史研究の交流もようやく始まろうとしている段階にある。このような時期に本書が出版され、平塚らいてう賞に応募されたことは貴重であるといえよう。

本書は『青鞞』をめぐる社会的状況の説明に若干の問題はあるが、課題別に資料や研究や文献が丁寧に紹介・検討されており、付として、『青鞞』年表及び目次一覧、詳細な参考文献が付けられている。

肖氏も「『青鞞』が登場して百年以来中国初めて全面的な研究だと思われる」と言われており、今後本書を基礎として中国国内に研究が大きく広がるものと思われる。

今後は、本書の緒言で言及されている「中国女性解放と日本のそれとの関係」や「世界の女性解放運動に与えた貢献」などの諸課題がより深められることを望みたい。

### <奨励>

受賞者：高橋 順子氏

研究テーマ：「近現代沖縄社会における“新しい女たち”

―沖縄初の女性校長砂川フユを中心に―

受賞理由：沖縄県初の女性校長砂川フユを中心に、近現代沖縄社会の「新しい女たち」の登場と活動を明らかにしようとしている。フユの学んだ沖縄県女子師範学校は、県内一的女子教育のエリート校であり、『青鞞』が読まれたり、沖縄研究に大きな足跡を残した

著名な伊波普猷が招かれたりしている。

沖縄の女性たちの、特に第二次世界大戦後における米国占領下の実態と重ね合わせ、女性たちの新しい多様な活動を明らかにすることが期待される。

<特 別>

受賞者： 東日本大震災女性支援ネットワーク

(共同代表 - 竹信 三恵子 氏・中島 明子 氏)

研究・活動テーマ：

「東日本大震災で被災した女性たちのニーズが支援活動や復興過程に反映させられると共に、復興支援の諸政策にジェンダー・多様性の視点が組み込まれること」

受賞理由： 東日本大震災女性支援ネットワークのメンバーの方々は、3年間にわたり共同代表の竹信三恵子、中島明子両氏を中心として東日本大震災の被災者—特に女性に焦点を当て、復興支援活動を続けてきた。

その活動の特色は次のようなものである。

- 1：明確な目標と活動方針をもち、それに基づき活動を展開している。
- 2：復興過程におけるジェンダーおよび多様性の問題を直視し、できる限り女性や災害弱者の存在に注目し、問題解決を計ろうとしている。  
そのための人材育成の必要も視野にいれている。
- 3：コミュニケーションを重んじ、ネットワーク内外で意見交換し、新しい復興支援のあり方を提案している。
- 4：視野を広く活動し国連や女性の人権団体とも交流している。
- 5：常に活動の成果をまとめ、チラシから単行本までさまざまな形で記録を残している。これらは現在のみでなく、将来の災害時にも参考となろう。

総じて言えば、このネットワークの方々は、災害支援をきっかけに多くのことを実践しながら学び、これまでにない新しい支援のありかたを経験を通して示唆している。

平塚らいてうとは直接の関係はないが、以上の理由から「特別賞」に十分値すると選考委員全員が賛同した。

以上